

||||| センター事業団だより |||

福祉事業を市民の手に

岡本 章寛（東京都／東京事業本部）

ヘルパー講座を焦点に、地域に暮らす市民と切り結んで地域福祉の仕事おこしに向かおうとする今、既存の現場に限定された内向きの協同をつくることのみならず、労協を発信し、ともに拓く市民と出会い、結び、その立ちあげを支援する存在へと高まろうとする組合員の新しい挑戦が始まっている。

三多摩事業所では、経営悪化の危機を突破し、自らが地域に出て市民と切り結んだ仕事おこしに挑戦しようとの意識から始まって、清掃やプール管理の現場で働く組合員が主体となってヘルパー講座を連続的に開講するとりくみが昨夏から続いている。今年度も4月の八王子を皮切りに、5月の稲城、多摩、9月からは府中、八王子、国分寺、調布とオンパレードである。

介護保険制度導入と前後して、自治体や多くの人々の期待と共感を追い風に、高齢者・市民自らが主体となってつくる地域福祉事業所の開設が相次いだことをうれしく思う。一方、そのことが、事業・運動の両面から労働者協同組合の基礎をつくり発展させてきた清掃や緑化など既存事業の仲間の実感とはなかなか成り得ず、自分たちとは関係のないこととして捉えられる傾向が強くなり、この両者を結びきれないやるせなさを感じていた。三多摩での事業所あげての挑戦は、既存や地域福祉といった枠を取り払う、東京でも初めてのケースである。そして、それに続こうと、北部1、病体、東部1の各事業所でも同様の取り組みが始まっている。生活と事業の距離が少しずつ、

だが確実に近くなりつつあることを感じる。特に中心となって奮闘している2人の若手組合員の活動を紹介したい。

プール管理の仕事に就いている女性の組合員は、祖母や娘との生活を通じて、自分の住む地域、福祉に関心を寄せる思いからヘルパー講座に向かっている。生活の場を本当にどうしたいのかを受講生と語り合い、拙いかもしれないが自分の言葉で地域福祉事業所と一緒につくろうと呼びかけ、同じ思いを持った仲間と、八王子で地域福祉事業所「あおぞら」を10月に立ち上げる。また、今期から府中事業所長として活動している男性の組合員も、府中という地域を愛し、自分の住むところなのだから自分の手でよりよい街にしたいと、受講生とともに事業所開設へ向け準備中である。

若者の労働のあり方について昨今議論が盛んだが、決して意欲がないわけでも継続性がないわけでもないと思っている。ひとりでやれることには限界があるけれども、同じ思いを共有し、支えあい、育てる関係を市民とともつくる中で、自らの労働に「地域にとって必要な存在」だという価値を見出せる。地域の中での自分の存在する場所が鮮明になる。さらに力が発揮される。そんな労働のあり方が協同組合だったらできる。

11月末には協同集会在が地元東京で開催される。ヘルパー講座同様、多くの人と出会い、話ができる絶好の機会である。その期待を胸に、新たな可能性に挑戦していきたい。